

No.3030

『外国人看護師 EPA に基づく受入れは何をもたらしたのか』の出版

長崎大学生命医科学域保健学系 教授

平野 裕子

本助成活動は、2007年から2020年の長期間にわたり、経済連携協定（EPA）に基づく外国人看護師の受入れに関する現状と課題に対して、保健医療社会学・看護学・文化人類学・経済学等の専門領域の研究者らが、学際的かつ経時的に接近した成果を取りまとめたものである。

本書では、EPAで入国したアジアの看護師たちが介護職として働く技能実習生に対する受入れをどのように認識しているかという点のみならず、外国人看護師の受入れに対するコロナ禍の影響についてもとりあげることができた。特に後者については、コロナ禍の影響が外国人看護師の国際移動にどのような影響を与えたのかを明らかにした、本邦初の書籍であると思われる。

<成果物（書籍）概要>

はじめに（平野裕子、米野みちよ）

序章 外国人看護師と、送出し国、受入れ国の現状（平野裕子）

I部 外国人看護師の受入れとEPA制度

第1章 二国間経済連携協定の締結の経緯と来日を目指す外国人看護師たち（大野 俊、比留間洋一）

第2章 EPAプログラムと日本語教育の諸相（米野みちよ）

第3章 文化によって異なる看護の「正解」——国家試験の模擬試験分析から（平野裕子）

II部 外国人看護師の日本での生活

第4章 インドネシア人看護師らをめぐる摩擦と共生、生活適応——来日初期を中心に（平野裕子、スシアナ・ヌグラハ）

第5章 温かい支援と厳しい現実——日本で働くフィリピン人看護師たち（コラ・アニョヌエボ／米野みちよ訳）

第6章 介護職になった看護師たち（平野裕子、カトリーナ・ナヴァロ、スシアナ・ヌグラハ）

III部 EPA制度に基づく外国人看護師の受入れを問いなおす

第7章 受入れ例から見たEPA外国人看護師・介護職——10年後の経済評価（坪田邦夫）

第8章 経済連携協定と看護師の国際移動——「ダブルスタンダード雇用」をめぐって（平野裕子）

IV部 外国人看護師の帰国とポストEPA

第9章 帰国者に見るEPA制度の課題——帰国理由・滞在満足度・帰国後の現状の分析を中心に（平野裕子、米野みちよ、比留間洋一、スシアナ・ヌグラハ）

終章 おわりにかえて——コロナ禍と外国人看護師（平野裕子、米野みちよ）